

助成事業完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付 : 2018年1月31日
事業ID : 2016402441
事業名 : 瀬戸内海の日アート・体験プログラム(海と日本2017)
団体名 : 瀬戸内海の日アート・体験プログラム実行委員会
代表者名 : 会長 小嶋 光信
TEL : 082-542-5025
FAX : 082-240-6030
事業完了日 : 2017年12月31日



事業費総額	9,570,048円 (収支計算書に記載する決算額)
自己負担額	2,280,048円
助成金額	7,290,000円 (千円未満は切り捨て)
返還見込み額	0円

事業内容:

瀬戸内7県(兵庫・岡山・広島・山口・徳島・香川・愛媛)で、瀬戸内海に触れる機会を作り、瀬戸内のブランド化を図るために以下の事業を実施した。

1. 「瀬戸内アートクルーズ」

- (1) 時期 : 2017年8月～11月
- (2) 場所等 : 瀬戸内エリア(防府・尾道×5回・今治・松山の各エリア)
- (3) 参加者 : 親子 計110名(ツアー設定本数:8本)
- (4) 内容 : 瀬戸内を訪れ、学ぶ事により環境保全を考え、多様な文化を知った。

2. 小中学校対象「アートキャンプ」(1泊2日)

- (1) 時期 : 2017年8月10日～11日
- (2) 場所等 : 愛媛県中島エリア
- (3) 参加者 : 小・中学生 8名
- (4) 内容 : 「多島美」で知られる瀬戸内海の暮らし、伝統を体験し、地域を考えるきっかけをつくった。

3. 「次世代教育クルーズ」(1泊2日)

- (1) 時期 : 2017年8月8日～9日
- (2) 場所 : 岡山県笠岡諸島

- (3)参加者:中学生・高校生・大学生 9名
- (4)内容 :緩衝地(海の直前にある排水を貯水する場所)清掃、泥の浚渫
海の生業を守り続ける達人への弟子入り体験
海と生きるアイデアに関する討論会

4.「瀬戸内・海と日本シンポジウム」の開催

- (1)時期 :2017年7月30日(キックオフイベントとしての位置付け)
- (2)地域 :鞆の浦(広島県福山市)および周辺地域
- (3)参加者:シンポジウム親子 34名 クルーズ15名
- (4)内容 : 海に関する学びをテーマとして、海とのつながりや海の新たな側面への気づきを提供した。

事業評価:

1.事業目標の達成状況:

【申請時の目標】

●本事業の実施によって達成したい状態

- (1)クルーズ船の運航により瀬戸内のアート（歴史遺産、歴史建造物、伝統芸能）に触れる機会を創出、また、新たな航路を試験的に運航する事で、新ルート形成や旅行会社への新商品造成を働きかけ、2017年度に1ルート以上の新規航路就航を目標とする。
- (2) 海の体験プログラムについては、瀬戸内海を楽しむ重要なファクターとして、広域連携で事業者紹介、参加への動機づけ、海との触れ合い機会を増やすことを目標とし、隣接する他地域事業者への連携、ネットワーク構築を促す。
- (3) シンポジウムは、瀬戸内での「海の日」を力強く訴求し、地域にメッセージを伝える場として各地域持ち回りにて海に関わる事業者、一般参加の聴講者、地域のメディアの協力のもと開催する。

●それを達成することで期待できる効果

- (1) 2020年東京+1（両方）に向け、目的地としての選択肢を瀬戸内へ。交流人口の拡大を実現する。
- (2) テーマ発信による訪問客の増大、瀬戸内を楽しむプログラムの開発を通し、海に生きる瀬戸内圏域の事業者連携を強化し、訪問客の満足度を向上（クルーズツアー参加者のアンケートによる「満足・やや満足」回答率：70%以上を目標）させる。

●本事業を次にどう生かすか

海に囲まれている日本でありながら、海に親しむ機会が減り、改めて触れると多くの気づきを得られる事を参加者に知っていただいた上で、瀬戸内海エリアにおいて多種多様なクルーズを提案、展開していく一方、定期路線の認知度向上も図り、海への関心をさらに広く高

めて行く（クルーズツアー参加者のアンケートによる「今後も海を楽しみたい」回答率：60%以上を目標）

【目標の達成状況】

- (1) チャーターによるクルーズ船の運航を実施したことで、日常的には観ることの困難な視点（海上）や、通常の交通機関ではアクセスが難しい場所を訪れる機会を創出出来た。

昨今の瀬戸内海に対する注目度が上昇する中で、尾道市のペラビスタマリーナを母港とするクルーズ客船「gunt ū」（ガンツウ）が2017年10月17日に新規で就航となり、尾道を発着する航路で新たに営業を開始したことが全国から注目を集め、その船体の外観や構造、サービスの内容をはじめとして大きな反響を呼んだ。

なお、尾道に隣接する三原では、三原港を発着する大久野島への航路が2017年4月に新規就航し、2018年度も継続運航されることが決定している。

- (2) 県内で船を活用したツアー造成に実績のある旅行会社と連携して企画・実施したことで、船会社をはじめとした地域事業者のネットワーク拡大、事業の意義や関係者への意識醸成を含めた告知が一定程度出来たと考える。

- (3) アンケート集計の結果、クルーズツアー参加者のアンケートによる「満足・ほぼ満足」回答率が76.5%と、目標の70%を上回るまで上げることが出来たことで、事業の確かな手ごたえを感じられた。

アンケート集計の結果、クルーズツアー参加者のアンケートによる「今後も海を楽しみたい」回答率が72.5%と、目標の60%を10ポイント以上上回り、参加者の海への関心をさらに広く高めて行ける一助となることが出来た。

2.事業実施によって得られた成果:

特に尾道エリアで実施の瀬戸内アートクルーズにおいては、広島県が実施した「海と山のアート回廊」事業と連携したことで、TVでの広島県知事の会見放映をはじめとしたマスコミによる各種報道がなされ、JRの駅などに「海と山のアート回廊」のポスターが掲出されるなど、注目を集めた。

参加者のアンケートからも、通常陸地から眺める各種アートを海から鑑賞したり、船で海から上陸して散策すると、全く違って目に映ることへの驚きを感じ取れる。

何よりも、著名な現代アーティストによるエリア各地でのイベント開催に合わせてツアーを企画・実施したことで、美術館、屋外、観月会、映画館、廃屋・廃校再生などの多種多様な場面で参加者がさまざまな形態のアートに触れ、ひいてはそのアートを生んだ瀬戸内海との繋がりを再認識したことが最大の成果と考える。

3.成功したこととその要因

広島県が実施の「海と山のアート回廊」事業と連携したため、通常では開催されない注目度の高い各種イベントや訪問先をツアー内容に盛り込めたことで、参加者にとってはいい意味での非日常性が高まった上、イベントを主催するアーティストとサプライズで会える場面や、通常見ることの出来ないアートを観賞出来たことで、満足度が高まったことは成功と言って良いと考える。

4.失敗したこととその要因

「瀬戸内アートクルーズ」は合計8本のツアーを設定したものの、連携した広島県側の事情により、広報の開始時期が予定の8月上旬から9月上旬となり、9月に企画したツアーの集客が思わしくなく、結果として催行中止に至ったことは失敗と言わざるを得ない。

なお、7・8月に実施したシンポジウム・クルーズがことごとく台風直撃や酷暑などの天候不順により、想定を大きく下回る参加者数となってしまったことは非常に残念。

旅行シーズンのピークである10月にも、台風の接近によりやむなく2本の催行を中止せざるを得ず、楽しみにしていた参加予定者には残念な思いをさせてしまった。

事業成果物:

1. 各事業ツアー実施後の報告書
2. 募集チラシ 合計 75,000 部
 - ・「瀬戸内アートクルーズ」 31,000 部
(今治 10,000 部、松山 10,000 部、防府 4,000 部、尾道 7,000 部)
 - ・小中学校対象「アートキャンプ」 10,000 部
 - ・「次世代教育クルーズ」 30,000 部
 - ・「瀬戸内・海と日本シンポジウム」 4,000 部
(シンポジウム 2,000 部、モニタークルーズ 2,000 部)
3. 広報媒体紙等
4. アンケート集計結果
5. PV閲覧実績 2017年5月～12月 6,841PV

収支計算書
(2017年5月1日から 2017年12月31日まで)

収入の部

(単位円)

科目	予算額 (A)	決算額 (B)	受入済額 (C)	返還額 (D = A - C)	備考
日本財団助成金収入	7,290,000	7,290,000	7,290,000	0	
自己負担	1,830,000	2,280,048	2,280,048	-	
収入合計	9,120,000	9,570,048	9,570,048	-	

支出の部

科目	予算額	決算額	支出済額	未払額	備考
人件費	1,505,000	1,766,000	1,550,000	216,000	
諸謝金	250,000	0	0	0	
旅費交通費	480,000	307,435	257,435	50,000	
直接費	200,000	579,520	579,520	0	
印刷製本費	550,000	670,140	670,140	0	
アートクルーズ助成	2,450,000	3,180,000	3,180,000	0	
次世代教育クルーズ	1,900,000	801,372	801,372	0	
会議費	610,000	1,500,000	1,500,000	0	
消耗什器備品費	500,000	6,000	6,000	0	
通信運搬費	350,000	434,581	434,581	0	
事務管理費用	325,000	325,000	325,000	0	
支出合計	9,120,000	9,570,048	9,304,048	266,000	